



## フレーズ&センテンス

「世界は、この世に生まれてくるすべての子どもたちのものであり、手にするためにはお金なんかいらないからです。」

パパが出張先から幼い娘に毎晩電話で聞かせたおはなしを集めたという構成のイタリア文学です。その設定どおり2~3ページの短いおはなしがたくさん収められています。イタリアでは、子どもたちが初めて自力で一冊読破する本がこのロダーリなのだそうです。言葉は少なく静かでも、子どもをわくわくさせる温かい気持ちがあふれていて、大人が読んでもとてもおもしろい。眠る前のひとときに、またお子さまと一緒にぜひ楽しんでみてください。

『パパの電話を待ちながら』ジャンニ・ロダーリ/著 内田洋子/訳 講談社文庫

(中井)

## かける×本精読

今月から新しいコーナーが始まります。「×本」とはやよい図書館の造語で、「人×人」の対談集や「人×物」を特集した本など、意外な組み合わせから生まれた面白い本を紹介するコーナーです。

### 江國香織 × 辻仁成『恋するために生まれた』 幻冬舎

今回紹介する本は、『冷静と情熱のあいだ』などでコラボレーションしている、江國香織と辻仁成の共著です。「愛と孤独のあいだ」「恋と愛のあいだ」「純愛と不倫のあいだ」など、愛をテーマにした互いの文章に、それぞれ応えあう、往復書簡のような構成になっています。お互いに似ているところもあり、全く違うところもあり…二人のやり取りを読んでいて、「なるほど」と思うこともしばしば。恋愛にお手本はないけれど、こんな参考図書があつてもいいのでは？



## Cinema library

### 第8回 スカイ・クロラ

秋晴れの爽やかな日が多くなりましたね。今回紹介する作品は、真っ青な空が印象的な森博嗣原作の『スカイ・クロラ』です。2008年に押井守監督でアニメ映画化されたことで、記憶に新しい方も多いと思います。

戦争をショーとして展開するようになった世界で、主人公ユーヒチは新たなパイロットとして基地に着任します。消えた前任者の補充要員として送り込まれたことを知り、この前任者と基地の女性司令官スイトの間に何があったのかを追いかけています。前任者は殺されたのか、自ら消えたのか、消えたとすれば今何をしているのか？大人にならない永遠の子どもである「キルドレ」として生きる彼らの生き方にも注目です！

原作は『スカイ・クロラ』の他に過去編が4冊あり、時系列では『スカイ・クロラ』が最後になります。ぜひこちらも読んでいただきたいのですが、おすすめしたい作品はもうひとつあります。原作の章と章の間に引用されるJ・D・サリンジャーの『ナインストーリーズ』です。他の小説やアニメなどでも引用されることの多いサリンジャーの作品ですが、こちらの作品や押井監督の他アニメを観賞する際、事前に読んでいるとより一層面白くなります！お試しあれ。

・『スカイ・クロラ』森博嗣/著 中央公論新社

・『前略、押井守様。』野田真外/編著 フットワーク出版

次回は『7月24日通りのクリスマス』です。お楽しみに！

(田中)

## 読書の窓

### わんこ・にゃんこの詰め合わせ



今回の読書の窓は、ワンちゃん・ネコちゃんの本を集めました。ペットを飼っている人はもちろん、飼っていない人にも感動や癒しなどを与えてくれる本ばかりですよ！

次回の読書の窓は  
1月号です



### 11月「わんこ」

#### 『ワンダードッグ』

竹内真/著 新潮社  
とある一匹の子犬を拾ったことからワンダーフォーゲル部（通称ワングル部）に所属した高校1年生の源太郎。部室で飼うことになった捨て犬ワンダーとワングル部員の成長が描かれています。この本の魅力は、ただの犬と人の感動物語ではなく、普段聞きなれないワングルの活動の様子を知ることができるところです。登山部とはまた違う「山のスペシャリスト」それがワングル部だと思います。（佐藤）

#### 『ソニア 世界でただ一頭の白ラブ』

葛西 譲子/著 河出書房新社  
黒いラブラドール・レトリバーだったソニアは、親しかった飼い主を亡くした後、徐々に体の毛が白くなり、最後には全身真っ白な毛におおわれた犬になりました。亡くなった方の奥様が語るソニアとご主人の思い出は微笑ましく、それゆえに痛ましさが胸に迫ります。互いに言葉が通じない「ふたり」だからこそ、心の深い所でつながっていたのかもしれません。（丸山）

#### 『犬のことば辞典』

きたやまようこ/著 理論社  
これは、「犬と人がことばを通してよりうまく理解しあうために」あるひとつの言葉を、「犬」と「子ども」と「大人」の視点から解説した辞典です。たとえば「穴」は、「大人、ふさぐ。犬、ほる。子ども、はいる」といった具合。思わずクスッと笑ってしまう、ユーモアたっぷりの辞典です。これを読めば、犬のこととがもっと分かるようになるかも？（丸山）

#### ・『ドッグファイト』

谷口裕貴/著 徳間書店  
・『犬が好き 人が好き トリマーだからわかる犬の気持ち』  
日野原重明/著 日本放送出版協会

### 12月「にゃんこ」

#### 『運のいい猫 悪い猫』

世界の国々で出会った、こんなネコのこと』

新美敬子/著 大和出版

もっとたくさんの猫と会いたい、写真を撮りたい！そんな著者の気持ちから始まった「猫旅」。世界中で出会う猫たちはどれも個性的です。食堂を包囲してごはんを頬張る猫、空から降ってくる猫。読んでいると思わず笑ったり、和んでしまいます。猫話はもちろん、旅行先の紹介としても楽しめる1冊です。（熊谷）

#### 『小福歳時記』

群ようこ/著 集英社

人気作家の群ようこさんが、12カ月の行事や季節をゆるりと過ごす様子が描かれています。何気ない日々の暮らしのよもやま話に「わかるなあ」と共感する部分がありつつ、時折登場する同居猫の「しいちゃん」が著者とふれあう姿にほっこり。表紙の可愛らしい猫のイラストにも癒されます。また、ゆったりとした読書におすすめの1冊です。（本田）

#### 『ナーゴの子猫たち いつでもどこでもネコ町物語』

モーリーあざみ野/著 日本放送出版協会

人間と猫が共存する町、ナーゴ。人口2万人と同じくらいの猫が人とともに生活しています。そんな猫好きにはたまらないナーゴに住む子猫たちを多彩なイラストと猫愛に溢れたコメントで一匹ずつ紹介しています。嗜み癖、愛想なし、かまわれたがり…と困った猫ばかり。なのに可愛い！ちなみにナーゴは仮名で、本当の町の名は秘密なんだそうです。（田中）

#### ・『袋鼠親爺の手練猫名簿』

T.S.エリオット/著 評論社

#### ・『秋の猫』

藤堂志津子/著 集英社